

社会資本総合整備計画（市街地整備） 事後評価書

平成28年3月17日

計画の名称	1 快適でうるおいのある空間の創出		
計画の期間	平成22年度 ～ 平成26年度（5年間）	交付対象	海老名市
計画の目標	相模川沿川地区は、「さがみ縦貫道路海老名インターチェンジ」の開設に伴う交通量の増加に対応した道路網の整備や地域防災の充実により生活環境の向上に向けた施策の必要がある地区である。 このような中、さがみ縦貫道路整備に伴う道路網の再構築により交通アクセス、交通安全、歩行者の快適性の向上、水辺資源を活用したうるおいのある都市環境の形成、交通拠点とレクリエーション拠点等を結ぶ水・緑・交通ネットワークの形成と各拠点の快適な空間形成及び活性化、防災・防犯機能の向上により安心・安全な都市環境の形成を図り、快適でうるおいのある空間の創出を目指す。		

計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> 道路網再構築による渋滞対策・歩行者空間の確保、雨水浸水対策や防犯灯設置等による防災防犯対策の強化を図ることで、市民の安全・安心に対する満足度を33%から35%に上昇させる。 交通拠点とレクリエーション拠点ネットワークの形成と各拠点の快適な空間形成及び活性化を図ることで、下落傾向にある海老名運動公園の利用者数を93,000人/年に維持する。 拠点間の歩行ルートの新設整備により、海老名運動公園とJR社家駅間の歩道の整備率を76%から100%に上昇させる。 地域の拠点施設の充実等、生活環境の向上を図ることで、市民の生活の便利さ・満足度を50%から53%に上昇させる。
----------------	--

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考						
	当初現況値 (H22当初)	中間目標値 (H24末)	最終目標値 (H26末)							
市が実施する「市政アンケート調査」を基に、対象地区の「防災体制・対策」、「防犯体制・対策」、「歩道・信号の設置等の交通安全対策」、「幹線道路整備」、「交通機関へのアクセス」についての満足度を測定する。 海西・社家・門沢橋・上郷・下今泉地域回答/市全域回答	33%	35%	35%							
海老名運動公園の個人利用者数を測定する。	93,000人/年	93,000人/年	93,000人/年							
海老名運動公園とJR社家駅間の歩道の整備率を測定する。 歩道整備延長（m）/延長（m）	76%	76%	100%							
市が実施する「市政アンケート調査」を基に、対象地区の「文化・スポーツの施設」、「買い物等の生活の便利さ」についての生活満足度を測定する。 海西・社家・門沢橋・上郷・下今泉地域回答/市全域回答	50%	53%	53%							
全体事業費	合計 (A+B+C)	5,718百万円	A (内提案分) 222 百万円	4,385百万円	B	421百万円	C	912百万円	効果促進事業費の割合 (A提案分+C) / (A+B+C)	19.83%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制 策定主体にて評価を実施	事後評価の実施時期 平成27年11月～平成28年3月 公表の方法 海老名市ホームページへの掲載、海老名市役所都市計画課窓口での閲覧

1. 交付対象事業の進捗状況

A1 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
1-A-1	都市再生	一般	海老名市	直接	海老名市	相模川沿川地区都市再生整備計画事業	道路、都市公園、下水道等 547ha	海老名市						4,385	別添1
									合計					4,385	
B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
1-B-1	道路	一般	海老名市	直接	海老名市	市道50号線延伸整備事業	L=117m W=5.0m	海老名市						30	別添2
1-B-3	道路	一般	海老名市	直接	海老名市	社家駅周辺整備事業	駅前整備等 約850㎡ 市道10号線 (L=95.0m W=9.5m) 市道50号線 (L=44.0m W=7.5m) 市道110号線 (L=300.0m W=11.0m) 市道512号線 (L=255.6m W=5.5m)	海老名市						260	別添3
1-B-4	道路	一般	海老名市	直接	海老名市	市道2614号線ほか1路線道路新設事業	L=140m W=8.5m 用地156.31㎡	海老名市						11	別添4
1-B-6	道路	一般	海老名市	直接	海老名市	市道53号線歩道設置等整備事業	L=400m W=9.5m～15.0m	海老名市						70	別添5
1-B-7	公園	一般	海老名市	直接	海老名市	(仮称)中野公園施設整備事業	駐車場整備	海老名市						50	別添6
									合計					421	

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
1-B-1	市道50号線延伸整備により、交通アクセス、交通安全、歩行者の快適性の向上を図る。	
1-B-3	社家駅周辺整備により、交通拠点とレクリエーション拠点を結ぶ水・緑・交通ネットワークの形成と各拠点の快適な空間形成及び活性化を図る。	
1-B-4	市道2614号線ほか1路線道路の歩道を整備することにより、歩行者空間の確保を図る。	
1-B-6	市道53号線道路を整備することにより、交通アクセス、交通安全、歩行者の快適性の向上を図る。	
1-B-7	(仮称)中野公園施設を整備することにより、レクリエーション拠点を結ぶネットワークの形成と地域の活性化を図る。	

C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
1-C-1	その他	一般	海老名市	直接	海老名市	(仮称)海老名市食の創造館整備事業	延床面積 3,359.3㎡ 地上2階建て	海老名市						426	別添7
1-C-2	その他	一般	海老名市	直接	海老名市	中新田保育園整備事業	増築延床面積 264㎡ 平屋建て	海老名市						71	別添8
1-C-3	その他	一般	海老名市	直接	海老名市	厚木駅周辺整備事業	面積 1,122.8㎡	海老名市						180	別添9
1-C-4	その他	一般	海老名市	直接	海老名市	学校施設を活用した緑環境整備事業	テラス解体・芝生化のための校庭整備(有鹿小学校、中新田小学校、社家小学校、門沢橋小学校、海西中学校) 芝生化のための校庭整備(有鹿小学校、社家小学校、門沢橋小学校)	海老名市						50	別添10
1-C-5	その他	一般	海老名市	直接	海老名市	防災情報システム設置	超高感度情報システム、高速無線アクセスシステム設置	海老名市						105	別添11
1-C-6	その他	一般	海老名市	直接	海老名市	わかば会館大規模改修事業	延床面積 約3,130㎡ 地上3階建て 個別空調設備設置、LED化照明、トイレ改修	海老名市						80	別添12
合計												912			

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
1-C-1	防災の拠点としての機能や市民開放型の施設機能を付加した(仮称)海老名市食の創造館の整備により、広く防災対応効果の向上を図る。	
1-C-2	中新田保育園の整備により、各拠点の快適な空間形成及び活性化を図る。	
1-C-3	厚木駅周辺整備事業により購入した土地を市街地再開発事業において駅前広場に転換し、交通渋滞の解消等により交通利便性の向上を図る。	
1-C-4	学校施設を活用した緑環境を整備することにより、緑のネットワークの形成を図り、快適な空間形成及び活性化の効果を図る。	
1-C-5	防災情報通信システムを設置して防災対策の強化を図ることにより、市民の安全・安心に対する満足度の向上を図る。	
1-C-6	わかば会館の大規模改修により、防災の拠点(福祉避難所)としての機能を拡充し、防災対応効果の向上及び安心・安全な都市環境の形成を図る。	

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> 防犯灯の設置、地域の避難拠点としても機能する(仮称)中野公園や(仮称)市民活動支援施設、(仮称)海老名市食の創造館、防災備蓄倉庫の整備、市医療センターにおける自家発電機の設置など、市民の目に見える形で地域の安全・安心環境の向上に資するストックの充実が図られたことにより、市民の安全・安心に対する満足度が高まった。 海老名運動公園の大規模遊具施設の設置による公園機能の向上とともに、さがみ縦貫道路の整備等に伴う広域アクセスや海老名運動公園周辺の市道整備に伴うアクセスの向上等が図られたことにより、海老名運動公園の利用者数(総合体育館・室内プールの個人利用者)が増加した。 			
II 定量的指標の達成状況	指標①	最終目標値	35%	目標値と実績値に差が出た要因	防犯灯の設置、地域の避難拠点としても機能する(仮称)中野公園や(仮称)市民活動支援施設、(仮称)海老名市食の創造館、防災備蓄倉庫の整備、市医療センターにおける自家発電機の設置など、市民の目に見える形で地域の安全・安心環境の向上に資するストックの充実が図られたことが目標達成度が高くなった要因と考えられる。
		評価見込み値	35.9%		
	指標②	最終目標値	93,000人/年	目標値と実績値に差が出た要因	従前値は近年で最も利用者数が少なかった平成18年度の実績値であり、平成19年度には増加に転じ、以降、増加傾向を維持しているものの、目標値設定の段階でこの増加傾向を考慮していなかったため、最終実績値が最終目標値を大きく上回る結果となったと考えられる。
		最終実績値	111,163人/年		
	指標③	最終目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因	実績値が目標値を達成。
		最終実績値	100%		
	指標④	最終目標値	53%	目標値と実績値に差が出た要因	平成25年の市政アンケート調査においては、「設問項目①:文化・スポーツの施設」に係る調査項目が細分化されているため、最終目標値と評価見込み値を単純に比較することはできないが、新たに整備された中野公園も遠方にあり、文化・スポーツ施設の整備や利便性向上等の評価が十分に得られなかったと考えられる。
		評価見込み値	47.5%		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況(必要に応じて記述)		防災関連施設の整備や地域の避難拠点における防災機能の強化・充実等が図られたことにより、地域住民の防災意識の高まりや防災訓練等の地域の防災活動への参加意識の高まり等につながっていると考えられる。			

3. 特記事項(今後の方針等)

- 相模川沿いの骨格的な道路ネットワークの適正な維持管理を図るとともに、交通需要マネジメント(TDM)や高度道路交通システム(ITS)等の導入により、更なる渋滞緩和を図る。
- 通過交通の侵入の抑制や走行車両の速度の低減を誘導するための地域独自の交通施策導入に向けた検討を行う。
- 雨水排水路の適正な維持管理を図る。
- 地域住民のコミュニティの活性化を通して、自助・共助の意識と災害対応力の向上を図るために、自主防災訓練や啓発活動等の地域が主体となった防災活動の支援を行う。
- 相模川の河川整備に合わせて整備された道路や高水敷の適正な維持管理を図るとともに、既存のレクリエーション拠点等の連携強化に向けた自然環境豊かな高水敷等の更なる活用を図る。
- 歩行者空間の日常的な維持管理に加え、プランターの設置等による緑と潤いのあるまちなみの創出など、地域住民が主体となったまちづくり活動の支援を行う。
- 地域住民のコミュニティや福祉、防災等の拠点となる施設へのアクセスを中心として、安全で快適な歩行者空間の充実に努める。
- 地域住民や市民活動団体等が主体となるまちづくり活動への支援を行うとともに、市が実施する事業においては、従来以上に市民との協働や対話を通じた計画づくりに努めるものとする。

(参考様式3) (参考図面) 社会資本総合整備計画書(市街地整備) 事後評価書

図面2-2

